

企画建設常任委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和6年5月23日(木) 第2委員会室
2. 出 席 委 員 吉川遂也委員長 藤原洋二副委員長 堀井秀昭 徳永泰臣 近藤久子 政野太
松本みのり
3. 欠 席 委 員 なし
4. 事務局職員 横山和昭議会事務局議事調査係長
5. 説 明 員 なし
6. 委員外議員 なし
7. 傍 聴 者 なし
8. 会議に付した事件
 - 1 所管事務調査の今後の進め方について
 - 2 庄原いちばんづくり留学事業について
 - 3 子どもたちと多世代の集いの場整備事業について
 - 4 その他

午前10時00分 開 議

○吉川 遂也委員長 ただいまから企画建設常任委員会を開会いたします。傍聴、録音、写真撮影、録画を許可いたします。

1 所管事務調査の今後の進め方について

○吉川 達也委員長 協議事項1点目、所管事務調査の進め方なのですが、（１）本市における自治組織の課題と対策等について、6月議会中になりますけれども、自治振興区事務局長を招致し、自治振興区事務の状況を調査しようと考えております。狙いとしては、自治組織の課題と対策という中で、余りにも業務が多いのではないかとすることを一つ課題として思っております。実際、どのような業務があるのか、あるいは業務過多になっているのか、あるいは要らない事務はないのか、直接担当されている事務局長を招致しようと考えているのです。どなたを招致するかについては、自治定住課長と軽く打ち合わせをしたところ、庄原自治振興区の事務局長さんがいいのではと言われておりますが、その他、それぞれの皆さんの中でこの方がよろしいのではないかとすることがあれば、同時に招致する日程を組みたいと思いますので、御提案いただければと思います。続けて次に行きます。執行者が自治振興区に依頼している事務の内容が適正かどうかを委員会で協議・検討し、課題を抽出するという作業をその次に進めていきたいと思います。前段で聞き取り調査をした中で、本当に必要なものかどうかを委員会の中で精査して、それを変える必要があるかを1回協議した後に必要に応じて各担当課を呼んで、事務の省力化に向けた調整・協議を行う。必要性の少ない事務については、負担軽減を図ることができるのではないかとという検討をしております。（１）について何か御意見があればお願いしたいと思います。徳永委員。

○徳永泰臣委員 6 月中に自治振興区事務局長招致と委員長のたたき台で示されているのですけれども、大小さまざまな自治振興区があると思います。自治振興区へ出向いて区長さん、または事務局員さんの話を直接聞くのも一つの方法ではないかと思うのですけれども、その辺どうでしょう。

○吉川遂也委員長 出向いて聞くという手も一つあるかと思うので、それも検討に加えればと思います。大小があるので、それぞれ違う悩みというか課題もあると思うのですけれども、事務の手続きをどう減らせるかという観点で話を聞きたいのです。その辺でいうと、その事務を着実に進めておられる代表的なところで、課長と相談したら庄原自治振興区はどうかという提案があった。そのほかここへ行ってみればいいということがあれば御提案いただいて、行って話を聞くというのも手ではないかと思うのです。面倒くさいからしたくないみたいな話ばかり聞いて帰っても、余り効果はないので、その辺も勘案しながらの判断になると思います。徳永委員、例えばどこへ行けばいいという提案があれば。

○徳永泰臣委員 提案は特にはないのですけれども、事務局長が全て把握されているならいいのです。事務の流れという面について、事務局員さん、実際に事務に携わっておられる方のほうがよくわかるのではないかと。少しくまぐさいといえないとよく聞くのですけれども、西城自治振興区とかそういうところに行って、いろいろ課題とかも聞いていただきたいという気持ちはあります。

○吉川遂也委員長 私のたたき台で出した狙いとしては、自治振興区に依頼している事務が過多になっているところはないのかという課題を一つ提案している。その自治振興区内で、例えばうまくいっていないとか、いろいろガバナンスの問題が調整できていないということは、また違う課題として取り組むほうがいいかと。政野委員。

○政野太委員 記憶が曖昧なのですが、過去にも何度かその事務についての調査を自治振興区にしているのではないかと。そのデータを見た記憶があるような気がするのですけれども、例えばその中には市役所からの委託が多いというものもデータとしてあったのではないかと。それら過去のものを参考にして、今回は庄原自治振興区と委員長が言われたのですけれども、一つではなかなか正しい情報を得ることはできないと思うので、徳永委員が言われるように何箇所か必要かと思うのです。どこがいいのかについては、また別のいろいろな情報が要るのかと思うのですけれども、規模的なものでいうと庄原が1番大きいのですかね。2番目が東城か敷信かどちらか。逆に小さいのが新坂で、その辺を抽出して3箇所から5箇所は聞かないと、なかなか正しいデータは拾えないのかなと思う。

○吉川遂也委員長 日程調整がつけば何箇所かに来ていただいて、特に事務局長としているのは、会長とは観点が違うのだらうというところと、市の職員を経験されているのでこれは要らないのではないかと、というお話も聞けるかなというところもあります。小さいところと大きいところと中盤のところと、全てを呼ぶのは多分難しいと思うので、何箇所か調整したいと思います。

○政野太委員 各7地域の長がおりますよね。その会議は1か月に1回ぐらいあるのか。そこに諮ったらどうでしょう。言いたいことがある人という感じで。

○吉川遂也委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 委員長は自治振興区ごとの問題点ではないという見解なので、招致するのが一つでなくても、二つも三つも同時でもいいのではないかと。市との関連を聞きたいということなら、そこら辺は何地域ぐらい呼ぶかということも委員長、副委員長へお任せして。一つの自治振興区では少ないという意見を踏まえてもらえれば。

○松本みのり委員 同じく連合会に諮ってはどうかという意見だったのですけれども、皆さんが共通の課題として、ここが問題だよね、こうしたら改善できるのにとこの思いがあるのであれば、それを出していただいて。その中で、幾つかの自治振興区に代表して話に来ていただいたり、こちらから聞きに行かせていただいたりするのがよいのではないかと思います。

○吉川遂也委員長 先ほど堀井委員も言われたように、市への要望事項であるとかを聞いて歩くのは市民と語る会をするので、その部分ではない行政手続上の事務手続がどれだけ過多になっているかというところ。先ほど政野委員が言われたように、何でもかんでも自治振興区に任せて下請みたいに使っているというアンケート結果があったように記憶しているので、その部分が具体的にどういうことなのか、どういうものは必要ないと考えられるのかを事務の負担を減らすという観点で話をしたい。出向くことが駄目だというわけではなくて、だんだんと市民と語る会みたいな話になってくると、少し論点がずれるという懸念が若干あったのです。出て行って話を聞くのも一つだと思うのですが、最終的には堀井委員が言われたように、3か5になるかわかりませんが、それぐらいのところを日程調整をつけて集めたいと思います。近藤委員。

○近藤久子委員 市民と語る会に出るときには自治振興区単位で行っていますので、必ずこういうことが出てきたのです。それは事務過多であると。先ほど委員長が言われたように、支所の下請の事業が多くてかなわないと。それと余りにもお金が少ないと。やれませんかということがこの会場でも出てきた。共通課題はそこだと思うのですよね。ここに書いてあるように、事務の内容が適正かどうかと意を得たところだと思うのです。それで、堀井委員がおっしゃったように、個々の議員がそれぞれ出向いて聞けばいいことと、今まで聞いてきたことのまとめがもちろんあると思うのです。1番大きいところ、それと新坂のようにもうしんどい、久代と一緒になってもすぐ人数的にはしんどくなると。道筋がだんだんと見えてくる中で、そういうところもはっきりお聞きしたほうがいいのではないかと思います。大きいところと小さいところではなくて、どういう課題を持っていらっしゃるのか。課題の大きさによって、それはお任せすればいいのではないかと。

○吉川遂也委員長 一つの話の進め方として、自治振興区の統廃合を検討するというのも当初頭にはあったのですが、自治定住課長と話をする中で、市が統合へ持っていくという方向ではなかなか難しいと。あくまでも自治組織なので、自分たちでどこと一緒にしたいという話が出ないと、丸く収まらないのではないかとこの共通認識を持っている。人数が少なくなってくるとか運営が厳しくなってくるとこのお話も出てくると思うので、それはそこで課題を抽出して、まだ時間があるのでどう対応できるかを検討できると思います。政野委員。

○政野太委員 これらに関する市の認識をもう一回整理してみたいと思うのです。市が過多だと思っているのかどうか。

○吉川遂也委員長 それは多分思っていないです。思っていないから出すのですよ。けれども、受けるほうに思っていたら、その間に入って調整できるのが議会という立ち位置かと思う。

○政野太委員 近藤委員はよく御存じだと思うのだけれども、東城の自治会が今、自治振興区の手務負担が非常に大きいということで、もう自治振興区との連携は図らないということが実際に起きているのです。自治振興区に対して行政からの事務が過多になっているのだけれども、さらに自治振興区から自治会に対しての業務が過多になっている部分も見受けられるのではないかと思います。そういう視点もぜひ入れてもらえれば。

○吉川遂也委員長 自治振興区と自治会の役割の在り方は、自治定住課長と常に意見交換しているので、それをどうこの委員会に持ち上げて波及させるかはまだそこまでの知恵が出ていないので、もう少し考えさせてください。それはやります。そのほかこの1点について、よろしいですか。進め方としては、副委員長。

○藤原洋二副委員長 いいと思います。事務局長はある程度の経験をお持ちの方を選定すればいいかと思えます。あと先ほど近藤議員が言われたのですけれども、お金の問題がかかってきます。例えて言いますと、生涯学習事業等については地域人口が減少する中で減額されてきております。同じことをやるのに自治振興区の人数が少なくなったら減額措置をされているということも含めて、お金の面も協議をしていただきたいと思います。

○吉川遂也委員長 その点も事務局から、この状況に対しての費用が少ないと言われる可能性もあるので、それはまた意見を聞いて持っていけばいいかと思っております。御意見を聞く中で、課題抽出をするというところで、6月中にできそうかどうか。事務局、日程調整できますか。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 検討して、調整をさせていただければと思います。

○吉川遂也委員長 2番目、自治体DX及び地域社会のデジタル化推進についての進め方ですが、先進地視察を検討しております。時期と内容を検討中なのですが、例えば施設視察の案として、ノーコードアプリの作成と市役所窓口のデジタル化、デジタル回覧版などを挙げております。ノーコードアプリの作成というのは、いわゆるキントーン。職員が自分で簡単に業務改善アプリをつくれるという試みを今年度企画課でやっているの、どういう進め方ができるか先進地を見るのもいいかと思ったので挙げています。市役所窓口のデジタル化については、市民の利便性の向上と、窓口対応の省力化を進めればどうかという観点からです。デジタル回覧版は、地域社会のデジタル化について先進的にやっておられる、町内会の回覧版をデジタル化するとかもう少しいろいろと市民の利便性というか、市民生活の中にデジタルを導入することの利便性をどう見るか、先進地視察をすればと思います。試案としてはこういうところと思っていますが、ほかに見るべき観点があれば、視察時期は8月から10月ぐらいまでと考えておりますので、それまでの間に何回か意見を出していただいて、それぞれの中で調べていただいて、行きたいところがあれば候補を出していただきたいと思います。2点目について御意見があればお願いします。よろしいですか。2点目については、とりあえず視察をして、提案事項ができればと考えておりますが、そのほかの進め方がもしあれば提案をいただければと思います。続いて3点目、持続可能な森林経営の構築については、昨年度視察を含め調査を進めてまいりました。調査報告書の作成に着手しようと考えておまして、9月定例会で報告と考えております。1点、フォレストワン庄原工場の視察を検討したいと思ひまして、先方と調整をしているのですが、なかなか先方の了承を得られていないので、これができるかどうかまだわからない状況であると思います。その調整について事務局から報告。事務局。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 林業振興課を通しまして、先方の担当職員さんに連絡を試みたのですが、ご多忙なのかこちらからの電話になかなか出いただけない状況で、調整ができていません。再度、林業振興課に依頼し、調整するように考えております。

○吉川遂也委員長 では3点目について御意見があればお願いします。

〔「なし」との声あり〕

2 庄原いちばんづくり留学事業について

○吉川遂也委員長 では2番目の協議事項に入ります。庄原いちばんづくり留学事業についてなのですが、これは予算審査の中できめ細やかに議会報告をいただいて、進捗状況を確認しながら進めていただきたいという要望を出しております。募集要項などの事業の詳細や進捗状況について、定例会中に執行者に説明を求めることを考えています。その必要があるかどうかも含めて、御意見があればお願いしたいと思います。近藤委員。

○近藤久子委員 少し動きかけていることがあるのは御存じですか。

○吉川遂也委員長 先般、教育総合会議を傍聴したときに、たたき台をいちばんづくり課が報告されていて、資料もまあまあ見られるものができていたので、委員会でも報告してもらいたいという意向です。それ以上のものができていればさらによしですけども、進捗状況を聞きながら意見を入れて、方向を変えられる段階というか、まだ検討事項がたくさんあるような状況なので一緒に良策を探るという方策がいいのではと思うのですが、よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

3 子どもたちと多世代の集いの場整備事業について

○吉川遂也委員長 3点目、子どもたちと多世代の集いの場整備事業についてなのですが、これも2番と同様に進捗状況と検討された内容について、6月定例会中に執行者に説明を求めるとしております。これはどの程度進んでいるのかまだ全く把握はしていない状況なのですが、これもさきの予算審査の場でもお話をしたように、市民の意見を聞く、あるいは進捗状況を細かに聞きたいという要望を出しております。それに沿った委員会としての動きとしたいと思いますが、これについての意見があればお願いします。政野委員。

○政野太委員 6月に3本入るようになっているけれども、日程的に大丈夫なのか。ただそれが閉会中の継続調査ではないのならば、定例会中にしないといけない。

○吉川遂也委員長 2番3番は、閉会中の継続調査に入っていないので、定例会中にしないといけない。6月中にやらないと先の日程が詰むので、早めに動きたいという思いで6月中としておりますが、これは相手方との調整なので。3番についてほかに御意見があれば。

○藤原洋二副委員長 6月定例会中ということなのですが、これは執行者に説明を求める中で、個別に聞いて、あと全協で報告にするというストーリーを、まず企画建設でちゃんと聞いてという形ですのですね。

○吉川遂也委員長 執行者側が全議員に報告したいという前提ではなく、こちらが聞きたいので報告してくれという話なので、全協にまで持っていけるような話になるのかどうかはまだわからない。予算審査の中で今後見ますよと執行者に言ったので、委員会として確認をという話なので、全協での報告まで求めるものではない。求めたいと言えば、それはやぶさかではないのですけれども。政野委員。

○政野太委員 子どもたちと多世代については、何度聞いてもあまりいい説明をいただいていないような記憶がある。3月の全協では説明をしていただいたのだけれども、進捗がなかったら説明のしようがないのかもしれないが、委員長からもしっかり説明をしてくれと要望してもらいたいと思います。

何かその場しのぎの説明しか聞けていないような気がする。

○吉川遂也委員長 ここでの議論が今後の設計に生かせるかは、まだ雲をつかむようなところがある。どの段階までなら設計に意見が反映できるのか。そのために少し早めに1回は話を聞いて、どういうスケジュール管理をするのかを含めて聞いてみたいと思います。

○藤原洋二副委員長 全協は盛りだくさんだったので、時間の関係で議長が途中で切られたのですが、僕は最後に言おうと思ったのですけれども、市民の意向は皆さん御存じのように10年前と5年前のデータしか出ておりません。現段階での市民意見はどうかというのは、やはり確かめる必要があるかと思いますので、ここはしっかり求めたいと思います。意向が段々下がって来るような流れなので、よろしくお願いします。

○吉川遂也委員長 ではそういった方向で今後動きますので、よろしいでしょうか。
〔「はい」との声あり〕

4 その他

○吉川遂也委員長 では協議事項にはないのですが、1点、主権者教育について事務局から説明を聞きます。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 先月の議員全員協議会の席で、小中高生等を対象に、常任委員会単位で各学校を訪れて、生徒さん等に主権者教育をというお話があったかと思います。その後調整の中で小中学校については少し受け入れが難しいようなので、市内の県立高校全てに事務局で回りまして、こちらの意向と先方さんの意向を確認したところです。その中で、東城高校が7月に実施をしたいと言ってくださっており、まだどちらの常任委員会がそちらに行くかも決まっておりません。もしこちら企画建設常任委員会で行こうと決めていただければ、そのように調整をしたいと思いますので、御協議いただければと思います。

○吉川遂也委員長 先ほど説明があったように、先般の議長との協議の中で、市内の高校に常任委員会が出向いて主権者教育をしたいということを聞いたのですが、個人的には高校生に対して主権者教育をするのに、議会で作ったパンフレットだけでは手持ちのコマが少ないという懸念としてある。内容について細かに事務局で想定し、その1時間なりを持たす内容を検討してもらいたいという要望はしております。実際全く手探りなので、軽々しく東城高校に行きますと、なかなか手が挙げにくい状況ではあるのですが、先ほどあったように7月上旬に東城高校からまずは要望が出たと。おいおい庄原、西城も含めて高校に行くことになりますので、どの委員会がどれに当たるかというのは先に手を挙げた順になるのかわからないですが、いずれかの高校には出向くようになるのではないかと思います。

○政野太委員 委員会で出向くともう決まったということですか。

○吉川遂也委員長 そのように聞きました。議長は小中高へ行くようにしてもらいたいみたいな話をされた。それで小中は断られたので、高校に行くことにして調整したと。

○政野太委員 各委員会というのはただの便宜上だけの話なのか。例えば企画建設の内容に特化したものがあるから委員会なのか、どういう意味で考えたらいいですか。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 議長は、常任委員会活動の一環として学校へ出向いて、主権者教育も含めて意見交換をしてはどうかという思いで御提案をくださったようです。

○政野太委員 だから企画建設に特化するものではないという意味で捉えていいのですよね。三つあるから、それでうまく回していけということで理解していいのですか。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 あくまでも常任委員会活動の一つという御提案だと思います。

○政野太委員 総務とか教育とか企画建設という言葉は取っ払って常任委員会活動。

○吉川遂也委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 これは議運が主体で実施する語る会とか、井戸端会議とかにはまちあわないと。もう議運はタッチしないということにしました。議長の思いは常任委員長を集めて会議をされたのだらうと思うので、各常任委員会がよしわかった、やってやろうとなれば実施をされればいいのであって、嫌なら嫌でもいい。

○吉川遂也委員長 要請は受けました。要請は受けただけでも、その内容について個人的にはすごく懸念するのです。例えば高校で1時間授業をするのは、大変重要なことだと思うのですよ。行ってそのパンフレットでぱっとしゃべって、質問はありますかみたいな薄っぺらなことはできないと思う。過去に公教育とかで小学校を回った経験があつて、内容をものすごく吟味してすごい時間かけて授業を検討してからやらないと、相手に失礼になります。議長は井戸端スタイルと同じようなものだからと言われたのだけれども、そういうものではないという意見を持っているので、委員会でどういう内容を誰が担当して、どういう話をしてということをきちんと詰めてストーリーをつくらないと、受けられない話かとは思っています。そういった意味で、授業なのでその発言はできません。想定問答を事務局ときちんと詰めないといけなと思うし、その授業の流れをきちんとつくらないと。今、高校で政治倫理なのか社会公民なのかわからないですけども、どういった授業を進められているのかも含めて確認した上でやらないといけないのかと思っています。

○堀井秀昭委員 ガイドブックをつくっていますよね。議会は何をするところだろうか、そういったことの周知が余りできていないのではないかと。議会と執行者等で地方自治体の事業は進められているのは、こういうシステムによって行われ、その中で議会はこういう役割を担っているのだと。18歳以上で投票権が発生をしている子供たちもいるわけだから、そういうことをきちんと理解してもらおうではないかということだろうと思う。1時間を受け持って、通常の授業並みのことをやろうと思ったら、それは難しい。そこまで重要に考えなくても、そういう話が終わった後は無駄話でもいいというぐらいの気持ちで行かないと。

○松本みのり委員 公教育という時間を1コマいただけるのですよね。少し時間が短いと思うのですけれども、高校生が相手だと日ごろ感じているまちの課題とかを出し合ってもらって、その中から請願にまとめますぐらいのものができれば。そこから請願を出したらそのあとどうなって、どう取り上げられて、まちの在り方に反映されるのか、反映は難しいのか。それが見られたら本当に主権者教育になるし、その後においてもまちづくりにもっとかかわっていききたい、議会はこういうことしているのだなというの理解してもらえるのかと思っております。

○吉川遂也委員長 事務局。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 東城高校につきましては1コマ50分という御希望を伺っております。各委員の心配ごと、御提案をいただいたのですけれども、こちらのお伝えしたい思いもあるのですが、学校側から聞きたいこともあると思う。それは担当教員の方と調整をする中で、どういった50分にするかは今後詰めていければどうかと思います。

○吉川遂也委員長 近藤委員。

○近藤久子委員 主権者教育は、教育をつけないといけないのですかね。

○吉川遂也委員長 事務局。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 私が冒頭で主権者教育と言ってしまったのですけれども、あくまでも常任委員会の活動なので、堀井委員がおっしゃったようにいろいろなスタイルで、各常任委員会の色を出していただいていいかと思います。

○吉川遂也委員長 あと高校から政治活動につながることはやめてくれと言われているようです。例えば、議員個人をPRするような場面は難しいと思います。かなり制限のある中で、先ほど堀井委員が言われたように制度を説明するのか、あるいはどうするのかというところはまだ個人的には全く見えないので、これは本当に協議をしないと。先例になるので、それが成功するか失敗するかよその委員会が見てこられるのでどうしようかと思っている。

○堀井秀昭委員 ガイドブックは基本的には制度の説明だから、高校生に議会とはどういったことをするところですよということを理解してもらおうというのが基本なので、その他のことも含めて大きく構えると大変しんどい。

○吉川遂也委員長 僕の記憶でいうと、ガイドブックにあることは多分中学校で習ってしまっています。それ以上のことをやらないと高校生に向けては厳しい。そういう観点なのです。だから中学校ならまだ何とかやれるかと。高校生に厳しい質問をされたときに、ガイドブックに載っていないのでわかりませんでは、議員としてはいけないと思います。本当に力量を問われるような場面があったときも想定をしてくれと、事務局に言っています。

○堀井秀昭委員 何年か前に高校へ出向いたことがある。その時はそういう制度の説明というよりはむしろ、地方自治、庄原のこれからについていろいろな意見が聞きたいとか、それから議員からも意見を言う場面が多かった。もちろん制度の説明もしている。そういった制度が小学校の高学年、中学校ぐらいで既に授業の中で行われているとすれば、今さら難しいので、もっと高校生のその地域に対する思いを聞いたり言ったりするという場面をつくらないと、とても50分持たない。

○吉川遂也委員長 それを心配するのです。

○堀井秀昭委員 私らはもう知っている、また同じようなことを言いに来て何なのだと高校生ぐらいになったら思うからね。

○近藤久子委員 学校からも聞きたいことがあるのではないだろうかとおっしゃった。逆に言えば、あなたたちは何しに来るのかと。何を生徒に伝えるために来るのかという、この基本的なものがしっかりしておかないといけないと思う。今ガイドブックがどうこうありましたけれども、ただ読んで、それを説明だけするのであるならば、以前失敗したように委員会がここへ行きました、そこへ行きましたということを順にスライドまでつくってやったことがあるのです。時間を潰すだけで、実に面白くないようなことを。だから高校生で初めての試みではあるのですけれども、本当にうまくできるのか。学校によって随分雰囲気が違うと思うのですけれども、そのところを上手に詰めておかないと。

○吉川遂也委員長 だから基本的には来てくれではないのです。こちらから行かせてくれ、時間を1つ使わせてくれと。行って好きなことを聞いてやるという姿勢ではだめなのです。基本的にはこちらでこういうことを言わせてください、意見を聞かせてくださいの関係性だと思う。だからそのためには、内容はしっかり持って行かないといけないことを、非常に懸念しているのです。なので、誰がどうい

うことをやるかも含め、綿密な打ち合わせが要るのかと思うのですが、それを踏まえてやるかやらないかの判断をお願いしたいと。できるなら行けばと思いますが、どうでしょうか。

○政野太委員　この1回だけで、そこまでの内容を詰めるのは難しいのではないですか。今出た意見というのは、全部共通の課題なわけだから。東城高校へどこかの委員会が行かないといけないのでしょうか。それは委員長レベルで、どういう方向に進めるのかを確認したほうがいいのではないですか。ここでいくら言っても今は準備できない。

○吉川達也委員長　前提としてやるとなれば、委員会で準備をしないといけないようになるので、まずはそのやるかやらないかも委員会に委ねるという意見がきょう初めてわかったのだ。

○政野太委員　正直言って断るという選択肢がありますか。

○堀井秀昭委員　せっかくつくったガイドブックは、基本的には印刷して配られていない。ホームページには載っている。これをもっと広くいろいろな人に見てもらいたい。ではどうすればいいかという観点からも一つある。ことしは事務局で何枚か印刷して、井戸端会議の申し込みがあったところへは、持っていけばいいのではないか。それも一つ。それから議長が考えたのは、高校生ぐらいで恐らく庄原市議会のホームページを開いているような子はいないから、このものを基本にわかってもらいたいというか、周知をさせてもらうためには出かけてみたらどうかというぐらいの思いだろうと思うので、別に強制でもない。ただ、議会としてもせっかくつくり上げたガイドブックなので、より周知を広げるという行動をすることについては、ひとつ取り組んでみないといけないのではないかという思いはある。議会は何をしているところかよくわからないと言われるようなところに向けて、議会も積極的に説明に出ていこうではないかという行動をしてくれということについて、別に反対はするわけではない。ただ三つの委員会が行くたびに、行ったところで違うことをしたり言ったりしたのではまずいということはあるので、そこら辺の調整を三つの委員会できちんとし、それから持って出る材料もきちんとある程度は整えて、基本的にはやってみますという結論でいいのではないかと思う。

○吉川達也委員長　個人的には、来てもらうのがいいと思うのですよ。議場を見たりとか、そこで話をしたりするほうが。僕は小学生相手を想定していた。小学生に来てもらって議場を見てもらい、市役所の中を見てもらうのが時間も潰せるし。こういうところで話をしているのだと体験の学習でいいかなと思ったのですが、それはバス代がないとかいろいろ言われて。そういった中で高校生となると、想定範囲から超えて難しいなと個人的すごく懸念しているのだけれども、やったほうがいいと言われれば。

○政野太委員　三権分立、それから二代表制とかいろいろ書いてあると思うのだけれども、吉川委員長が言われるように制度について子供たちは勉強しているわけですよ。例えばだけれども、二代表制と本当にあった事案とかをくっつけたら、高校生はすごく興味を持ってくれると思う。近くにも、これは二代表制なのという事例があるわけだから。

○堀井秀昭委員　そのような質問があったときに、答えられるような体制は整えていかないといけない。

○政野太委員　そういうことが起きるから政治というものがあるのだ、という話に持っていけば、高校生は十分理解してくれると思う。

○堀井秀昭委員　委員長・副委員長との会議で、うちはやるがうちはやらないということがないようにやるのなら、3常任委員会は皆取り組むということにして、それならどう臨むかという協議をまずしてみただけませんか。

○吉川遂也委員長 それは言われるようにはしますが、受ける方向で。東城高校になるかどうかは任せてもらうか、内容について決めたことと役割分担については皆さん快く実行していただくということを前提に。当然委員長・副委員長だけで行ってしゃべることにはならないと思いますので、それは各委員で分担し、協議し、中身についても検討して考えてもらうことを引き受けていただいた上での了承ということで、それでやらせていただければと思います。事務局。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 東城高校は、7月12日金曜日の午前10時から50分間です。

○吉川遂也委員長 委員会が東城高校でやろうということになればそうなります。委員会でこの議題を協議したのは多分ここが1番最初なので、きょう受けるということになれば東城で決まりますけれど、そこまでの熱意があるかどうかです。ぜひ企画でやりたいと。どうですか。そのほか。東城やりますか。そのため準備するにはスケジュール組まないといけないのですが。東城高校を受ける方向で調整させてもらいますので、それぞれスケジュールを空けておいていただければと思います。では以上をもちまして企画建設常任委員会を散会します。

午前11時00分 散 会

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定によりここに署名する。

企画建設常任委員会

委 員 長